



# 「人がいない」から始めた新しい挑戦」 — 現場農家が語る、仕組みと技術で支える未来の農業 —

人手不足が深刻な農業分野。  
その打開策を考えるため、実行委員会メンバー内外の経営体への取材を実施しました。  
さまざまな技術や工夫によって対応し、さらなる生産性向上を  
目指す3軒の生産者の取組をたっぷりお届けします。



取材時の写真(左から、陽だまりファームの森田さん、高橋代表、インタビューの足立実行委員長)

01

## 人が育つ果樹園経営 陽だまりファームの 「人づくり」と「発信力」

浜松市浜名区三ヶ日町にある「陽だまりファーム」は、温州みかんを中心に、ブラッドオレンジ、夏みかん、ブルーベリー、梅など多品目を栽培する農業法人です。面積は約12畝、生産量は年間150〜200㍏。地域でも有数の規模を誇ります。

代表の高橋社長は28歳で就農して以来、20年以上にわたり農業ブログを更新し続けており、SNSを積極的に活用するなど、「人が集まり、人が育つ農園経営」を実践します。

### 「顔が見える」情報発信で人を集める

陽だまりファームの求人、自社サイトやAirワークなどの有料求人サイトのほか、Instagram、YouTube、TikTok、個人ブログなど、さまざまなSNSを活用して行っています。「顔が見える投稿」を重視し、農場の日常や作業の様子を明るく発信することで、雰囲気や伝わる「親しみやすい農園」として知られるようになりました。

「とにかく自分たちがおもしろい、楽しいことを伝えたい。その方が、狙いを持って投稿するより継続できる。」

### 次の世代にチャンス。法人としての役割

果樹農家の多くが個人経営の中、陽だまりファームは法人として雇用の場を提供しています。今後は「農業をやりたい人にチャンスを与えること」、「仲間として共に成長し、長く関わっていただける人材の育成・受け入れ」を目標に掲げています。

「果樹農業は雇用先が少ない。だからこそ、やりたい人が経験を積める場になりたい。」

“人が育ち、農業が続く” 仕組みをつくることで、陽だまりファームの次なる挑戦です。



まずは「入り口」をつくることから  
陽だまりファーム 高橋 博之

ホームページやSNSを1つでも始める。週1回の投稿でいい。情報を出して、知ってもらうことが第一歩です。農業の楽しさだけでなく、厳しさも発信する。“あたりまえ”のことを“あたりまえに伝える”のが大切です。



みかんの選果機



陽だまりファームで働く皆さん

SNS投稿は社員の持ち回り制で週1回以上。「投稿の頻度や期日より内容やメッセージ性を大切にしている」と森田さん(社員・勤続11年)は話します。投稿をきっかけに若者からの応募も増え、今では高校生からシニアまで幅広い層が働いています。

過去には、県道沿いに掲げた「切り子さん募集」の旗を見た高校球児たち(25〜30名)が「社会経験を積みたい」と応募し、作業に参加したこともありました。「働くことや食のありがたみを知ってもらえた」と社長は振り返ります。



陽だまりファームの第3倉庫

農園では社員4名、パート6名、収穫期の切り子(短期雇用)など、さまざまな人が働いています。副業として勤務する人も多く、看護師、サービスマン、会社員など背景はさまざま。中にはキャンピングカーで全国を巡りながら決まった時期だけ働く人もいます。柔軟な雇用スタイルが特徴です。外で行う作業の他に、加工等、中で行う作業がありますが、基本は各人の得意を活かすスタイルで作業分担をします。資格取得にも力を入れており、フォークリフトや農業検定などに取り組む社員には資格手当を支給。パートも対象とし、「努力が時給アップにつながる」仕組みを整えています。

### “得意を伸ばす”働き方とキャリア支援

### デジタルツールで労務管理を効率化

広い園地と多様な人材をまとめるため、労務管理にはデジタルツールを活用しています。日報や出勤簿は「hoursol(有料版)でクラウド管理。社長はスマートフォンから作業の様子を写真で確認できます。ソフト調整には「調整さん(無料版)」を利用し、効率的に運営。スタッフは日ごと「O・△・×」をLINEで入力し、Excel形式で共有しています。「80歳の切り子さんもLINEで参加している」とのこと。出勤前日に予定を共有し、各自が作業場所へ直行する仕組みで、無駄な移動や指示の手間を省いた体制を整えています。



# 正確さが収量と信頼を生む 酒井農園のスマート農業の実践



取材時の写真(左は酒井農園の酒井代表、右はインタビューの足立実行委員長)

GPSトラクターで「まっすぐ」を極める

浜松市中央区大山町にある「酒井農園」は、バレイショ約5畝、ダイコン約6畝の畑で生産を行う農業法人です。代表の酒井一(さかい・はじめ)さんは54歳。農業経営高等学校と東京農業大学短大を卒業後、20歳で就農し、現在の経営は法人化して9期目になります。家族を含む従業員4名と、女性パート約10名が作業を支えています。大規模経営ながらも、「作業の正確さを徹底する」という姿勢を貫き、スマート農業技術を積極的に導入しています。

酒井農園では、整地や畝立ての精度を高めるため、市のスマート農業補助金を活用し、自動操舵機能付きのトラクターを導入しました。しかし、実際に使用してみると、まっすぐに走っているようでも少しずつズレが生じ、結果として1畝分の無駄なスペースができてしまうこともありました。

「真っすぐに畝を立てられれば、あと1畝分植えられる。たった数cmの誤差でも、積み重ねれば大きなロスになる。」

この経験から、後付けで「RTK(リアルタイムキネマティック測位方式)」を導入。誤差は1cm以内に収まり、ストレスのない作業が可能になりました。

## 防除は委託ドローンで効率化

農薬散布は、ドローンを活用しているが、所有するには維持費がかかること、稼働時期が限られることから専門業者への委託を選択。

「散布時間は短いですが、事前準備には時間を要します。」と酒井さんは話します。委託業者は農薬知識がない場合もあるため、事前に打合せを実施して農薬の選定等を行います。

現在、馬鈴薯部会107名のうち、ドローンを所有しているのは2名、委託しているのは5名程です。今後の希望者増加に備えた体制が整っていないことを酒井さんは懸念しています。必要な時期に適切な防除ができる環境にするためにはまだ課題がありそうです。

## 機械の改良で作業半減

芋掘りピッカーの工夫

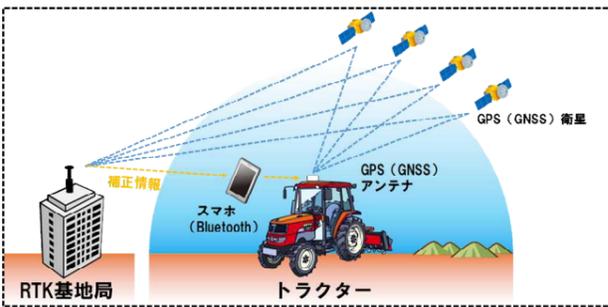
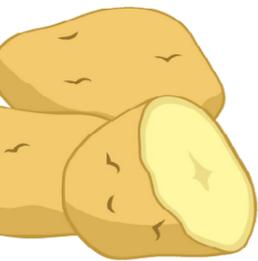
収穫作業では、従来、トラクターで掘り上げた芋を人力で拾いコンテナに入れる作業がありますが、酒井さんは市販のピッカー(芋拾い上げ機)を改良し、掘った芋を直接コンテナに移せるようにしました。その結果、10人で行っていた作業が5人で可能になり、大幅な時間短縮に成功しました。「現場で感じた小さな不便を改善するだけで、思った以上に省力化できることがあります。メーカー任せではなく、現場の発想を活かした改善が、効率化につながっています。」と酒井さんは話します。



メッセージ

スマート農業はあくまで“手段”  
酒井農園 酒井 一

まずは目的をよく考え、どの工程をスマート化するかを検討してください。ただ導入するのではなく、導入によって変化する土づくり等、栽培技術の情報、資材の情報もキャッチできるようアンテナを高くすることが大事です。



自動操舵トラクターにおけるRTK方式のイメージ



RTK方式導入でGPSトラクターに外付けした装備(黄色枠内)  
(写真左:屋根の上に設置されたアンテナ、写真右:ハンドルとモニター)



まっすぐな畝が立てられた畑



取材時の写真(左はすこやかファーム湖西の鈴木代表、右はインタビューの足立実行委員長)

03

一人ひとりの「できる」を支える  
すこやかファーム湖西の農福連携



HPIはこちらから



会社概要

会社名：株式会社すこやか(すこやかファーム湖西)  
所在地：静岡県湖西市白須賀2097-1



湖西市にある「すこやかファーム湖西」は、露地10畝とハウス45坪を活用し、きゅうり、オクラ、ゴーヤ、トマト、サツマイモ苗、キクラゲなど約10品目を栽培しています。最大60品目を栽培していたこともありましたが、現在は品目を絞り、安定した生産と作業しやすい環境づくりに力を入れています。農業を通じて、障がいのある人が安心して働ける場を提供する就労継続支援A型事業所として、スタッフと利用者が協力しながら日々の作業に取り組んでいます。

チームで進める農作業

ファームでは、役員2名、スタッフ7名、利用者30名が働いています。スタッフの年齢層は40代から70代と幅広い世代が活躍中。スタッフは緑のバンダナ、利用者は赤やオレンジ、黄緑のバンダナを着用し、一目で区別できるようにしています。

繁忙期で手が回らないときには、他の事業所に作業を委託することもあります。人手の確保や体制づくりは課題ですが、スタッフ同士が助け合いながら運営しています。

これからの課題と展望

スタッフの高齢化が進む中、世代交代が今後の課題です。

若い世代が働きやすい環境を整えつつ、経験のあるスタッフの技術や人との関わり方を次世代に引き継いでいくことが求められています。

また、新たに借り受けたブルーベリー畑の整備を進めており、農地を有効に活用しながら、新しい取り組みにも挑戦しています。

一部の未作付け地ではヒマワリやコスモスの栽培も予定しており、地域に親しまれる農場を目指しています。

長く続けられる環境を目指して

利用者が安心して働き続けられるよう、支給は最低賃金を下回らない金額としています。また、将来的な就労につなげるため、税理士や金融機関なども連携し、働く人の“次のステップ”を支援しています。

また、野菜ソムリエサミットでの表彰や新聞掲載など、外部からの評価を利用者に共有し、自分たちの作った野菜が評価されていることを実感してもらうようにしています。さらに、家族との連絡を密に取り、家族参観日を設けることで、家庭と職場が一体となった支援を進めています。

農福連携で大切にしていること

すこやかファーム湖西が一番大切にしているのは「繰り返し教えること」と「見守ること」です。

「教えればすぐにできるといふものではありません。早くても1年、長ければ10年かけて覚えることもあります。あせらず、根気強く関わることが大切です。」

他の事業所でトラブルを経験した人や、働くことに不安を抱える人も少なくありません。そのため、家族とよく話をしながら、一人ひとりに合わせた支援を行っています。

利用者の働き方と工夫

利用者の多くは知的障がいのある方で、午前9時から午後2時15分までの勤務時間で作業を行っています。1時間15分ごとに15分の休憩を設け、夏場は30分ごとに水分補給、1時間ごとに休憩をとるなど、体調に配慮した作業スケジュールを組んでいます。

農業の管理はスタッフが先行し、安全面にも十分に配慮している一方で、免許を取得してトラクターを運転するなど、利用者の中にも作業の幅を広げる人がいます。利用者への得意・不得意に合わせて作業を分担し、「できる作業を増やしていく」ことを大切にしています。



すこやかファームのスタッフと利用者



利用者のある日のスケジュール

メッセージ



農福連携に  
取り組みたい生産者へ  
株式会社すこやか  
鈴木 健吾

まずは、相談できる相手をつくること。『オールしずおか』※などの支援機関を活用するのいいと思います。そして、安い労働力と考えるとどうもよくない。出来ないことを責めるのではなく、どうしたら出来るようになるかを考えています。

※正式名称は、「認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」。



# とは？

Farmer's  
VOICE

＼農からはじまる、革命／

## どうする!? 農業の人手不足

「浜名湖アグリフォーラム」とは

農業生産者や農業を応援する人が一堂に会し、より良き未来のために夢や展望を語り合い、互いに学び育てあうことで新たな可能性を発見していくことを目的に、年1回開催しています。

令和7年度の実行委員は10名で構成され、いずれも西部地域の農業を牽引する担い手の集団です。次ページからは、実行委員の取り組み事例を「効率化の実践で人手不足解消?」、「人手不足時代の救世主?」の2つのテーマ別にご紹介します。

(一部の実行委員(ひらまつファーム、すこやかファーム湖西)の取組については特集ページでご紹介)



### 効率化の実践で人手不足解消?

-農家の組織作り、スマート農業、農業DX-

- 1 観光農園 かしまハーベスト ..... p.09
- 2 株式会社 日下農園 ..... p.10
- 3 takayamarose ..... p.11
- 特集 ひらまつファーム ..... p.17-18
- 4 (有)村松商店 ..... p.12
- 5 若松園 ..... p.13



### 人手不足時代の救世主?

-外部人材(農福連携、外国人、アルバイト、高齢者)、地域の農業者と連携-

- 6 足立柿園 ..... p.14
- 7 うなぎいも協同組合 ..... p.15
- 8 京丸園株式会社 ..... p.16
- 特集 すこやかファーム湖西 ..... p.05-06

2

## 株式会社 日下農園

住所 浜松市浜名区都田町7785-20

TEL 053-428-2234

Farmer's  
VOICE

農からはじまる。革命。

1

## 観光農園 かしまハーベスト

住所 浜松市中央区呉松町3624

TEL 053-487-0875

Farmer's  
VOICE

農からはじまる。革命。

組合設立で  
柑橘農業を未来へ繋ぐ

日下農園は温州みかん10ha、ブルーベリー0.3haを栽培する農業法人です。正社員3名を中核に、季節労働者35名を雇用しています。特に収穫期における労働力不足が課題で、主婦層を中心とした従事者の確保が困難な状況が続いています。また、柑橘農家数の減少に伴い、耕作放棄地が増加しており、産地全体の持続可能性が問われています。

こうした状況を踏まえ、柑橘農業を次世代へ継承するため、同園の日下代表は、農業組合の設立、行政機関との連携体制の構築、産地協議会の組織化を推進してきました。初期段階では経営システムの体系性構築が課題となり、採算性への懸念も寄せられましたが、これらの施策を通じて就農リスクの低減が実現されつつあります。

今後の課題は、組合組織のスケールメリット拡大、戦略的な設備投資の実行、資金確保の三点です。中長期的には搾汁工場の建設を計画し、農産物の付加価値化を通じた産地全体の競争力向上を目指しています。



▲組合の活動

▼日下農園のメンバー



▲柑橘就農支援事業組合ロゴ



## 経営者メッセージ

柑橘農業の明るい未来のためにも私たちは行動します。組合を通じた仲間との連携で、個々の農家では成し遂げられない大きな挑戦に取り組んでいきたいです。

株式会社日下農園 代表取締役  
日下竜太倉庫・作業場の5Sで  
業務を見える化

浜松市でイチゴ3,500㎡、メロン1,000㎡を栽培する観光農園かしまハーベストの宮本代表は、3名の従業員と3名のパートスタッフとともに観光農園を運営する中で、「新しく入った人が迷わず作業に入れる環境づくり」が課題だと感じ、作業場や倉庫の5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に取り組み始めました。

物の置き場所が共有されておらず、専門スタッフ以外が作業に入ると効率が落ちてしまう状況を改善するため、倉庫内の整理整頓や作業工程の見直しを進めましたが、当初は「捨てることへの抵抗」や、整えても時間が経つと散らかってしまうといった継続の難しさもありました。それでも改善を続けることで作業の進みが確実に良くなり、数値化はしていないものの効果を実感し、休日を安定して確保できるようになるなど働きやすさの向上につながっています。

今後は、施設への投資による生産効率の底上げや年間休日の明確化、さらに取り組みを数値化して継続できる仕組みづくりに挑戦したいと考えており、内部改革が農園経営をより良く変えていく手応えをつかんでいます。



▲イチゴの生産ほ場

▼観光農園を運営する宮本家



## 経営者メッセージ

新しく入った労働力に、どのように指導・教育していけばいいのかを悩んでいました。5Sに取り組むことで、みんなが動きやすい環境づくりにつながったと実感しています。

かしまハーベスト 園主  
宮本俊博

ホームページ



Instagram



かしまハーベスト

ホームページ



4

## (有)村松商店

住所 浜松市中央区西山町2365

TEL 053-485-8526

Farmer's  
VOICE

農からはじまる、革命

3

## takayamarose

住所 浜松市浜名区都田町8138

TEL 053-428-4123

Farmer's  
VOICE

農からはじまる、革命

### 自社造成で実現する 高品質茶園

村松商店は、6haの茶園を経営しながら製茶から自社販売、カフェ運営まで一貫した事業を展開しています。茶業では、かつての栽培品種の約7割を占めていた‘やぶきた’の樹齢が50年を超え、収量減少と夏季の水不足への対策が昨今の課題となっています。

そこで、これまで既存茶価では採算が合わないと言われていた茶園の改植・新植事業に、経験豊富な人材の確保と自社による造成体制の構築で挑戦を開始。土壌改良と農路整備を進める一方、点滴灌漑システムの導入により干ばつ対策を実装させています。

近年の需給環境の改善に伴い、「高品質茶葉の栽培」と「差別化商品の展開」で経営の安定化を図り、‘つゆひかり(品種)’50aの新植計画を推進中です。消費者に近い販売体制を活かしながら、質を追求する経営姿勢が、地域茶業の新たなモデルとなることが期待されます。



▲機械で農地を整備する様子

▼村松代表と栽培された茶葉で淹れたお茶



#### 経営者メッセージ

課題と向き合い、自分たちで解決する。そうした積み重ねが、次世代につなぐ経営へ。高品質茶園の実現は、夢ではなく実行の先にあります。

(有)村松商店 代表取締役  
村松正浩



### スマホを活用した環境制御 を導入し労働効率アップ

takayamaroseは、バラ40a、ブルーアイス10aの栽培面積を有し、7名の従業員体制で事業を展開しています。農業従事者の高齢化と労働力不足が深刻化する中、経営体制の抜本的な改革に着手しました。

同社が導入したのは、スマートフォンを活用した飽差制御システムです。数値ベースの客観的な栽培管理により、経験や勘に依存しない誰もが実践できる体制の構築を目指しています。システム導入当初は、天窓やサイド換気が未連動であること、各数値が収量に与える具体的な影響が不明確であることが課題となりました。

本システムの導入により、収穫本数の安定化を達成し、ハウス内での現地確認頻度を大幅に削減することに成功しました。今後はハウス全体の統合的な制御をより経済的に実現し、定量的な管理指標を確立することが重要です。現在試験栽培中の新品目に既存の栽培知見を応用し、新たな価値創造へと展開していく予定です。



▲バラの生産ほ場と高山代表

▼生産されたバラの花束とブーケ



#### 経営者メッセージ

飽差制御システムの導入で、栽培の最適化と労働効率の向上を両立させました。この知見を生産性向上に活かしていきたいと考えています。

(株)高山 代表取締役  
高山隆



ホームページ



Instagram



ホームページ



6

## 足立柿園

Farmer's  
VOICE

農からはじまる、革命

住所 浜松市浜名区大平938

TEL 053-589-8984

5

## 若松園

Farmer's  
VOICE

農からはじまる、革命

住所 浜松市浜名区新原2183-1

TEL 053-586-4410

### ノウフク連携を通じた 経営課題の解決と展開

足立柿園は、次郎柿5ha、太秋柿60aを栽培する農業経営体です。正社員3名、パート5名の体制で運営しており、秋季の収穫期における人手不足が経営課題でした。転機は、就労継続支援事業所とのノウフク連携です。当園では収穫から出荷まで一貫して行っており、特に次郎柿の個包装需要の増加が急務となっていました。

ノウフク連携による袋詰め作業の導入を検討した際、事業所に赴き、実際の利用者の作業風景を視察することで「これなら出来る」と思いました。

導入初期には検品業務の効率化が課題でしたが、光センサー選果機の導入により解決が図られました。

現在、冷蔵保管される次郎柿の安定供給が実現しています。

一方、通年での連携実施に向けては、事業所との意識共有やコミュニケーション強化が必要です。

2025年、別の仕事でのノウフク連携を図り、事前準備の充実と相互理解の深化が重要課題だと感じています。今後、秋季以外のノウフク連携の仕組みづくりに注力し、通年を通じた雇用連携体制にしていきたいです。



▲足立柿園のみなさん

▼袋詰めされた柿



#### 経営者メッセージ

障がい者雇用との連携で、秋の人手不足を解決しました。次は通年体制を整備し、安定した柿栽培経営を実現します。

足立柿園 園主  
足立章大平の次郎柿  
足立柿園

ホームページ



Instagram



### 安全と効率を両立させ た作業改革

若松園では、敷地面積213a規模で樹木コンテナ苗生産、芝生・樹木卸販売、造園設計施工、若松(切り花)生産を行っています。正社員4名とパートタイム職員7名で運営しており、繁忙期には人手不足の課題に直面することがあります。若松の刈取作業では刈払機を使用していましたが、機械の進行方向に作業者が立って松を保持する必要があり、危険性が高い作業でした。「危険性を排除しつつ、作業効率を向上させたい」という思いから、造園用トリマーなど複数の機械導入を試みましたが、大きな改善効果は得られませんでした。転機となったのは、西部農林の木村さんへの相談です。普及センターの紹介をいただき、導入実績のある生産者を紹介していただきました。実際に現地にも行き、より安全にトラクターで作業できるアタッチメントの導入に至りました。

新たな作業体系により、作業の安全性が向上し、従事者の負担が軽減され、作業スピードも大幅にアップしました。一方、機械は海外製品のため部品調達が課題です。現在はスペアパーツを確保していますが、将来的な調達可能性については注視が必要な状況です。今後も各事業において効率化・省力化をさらに推進し、継続的に改善していきたいと考えています。



▲導入したトラクターアタッチメント

▼若松生産の作業工程



#### メッセージ

機械化によって安全で効率的な作業体系を実現できました。今後は樹木と若松の全工程を効率化し、持続可能な経営を目指します。



若松園 高村康平

Wakamatsuen  
若松園

Instagram



8

## 京丸園株式会社

Farmer's  
VOICE

農からはじまる、革命

住所 浜松市中央区鶴見町386-1

TEL 053-425-4786

ユニバーサル農業で  
地域雇用を創出

京丸園は、メネギ、チンゲン菜、ミツバを主要作物とする青菜生産専門の農業法人です。役員4名、社員9名、パート107名の体制で運営しておりますが、かつては生産拡大に伴う労働力確保が重要な課題となっていました。そこで「ユニバーサル農業」の実現を掲げ、障害者や高齢者を含む地域の求職者が活躍できるシステムの構築に着手。農業生産工程管理(GAP)の導入と、スマート農業による機械化を推進することで、安全性と効率性の両立を実現しました。

現在、同社では最高齢89歳から最年少20歳まで、多様な年齢層が従事しており、うち30名の障害者が重要な戦力として活躍しています。20年以上の長期勤続者が12名おり、職場環境への高い満足度が窺えます。

今後は、ユニバーサルデザイン原則に基づく農業モデルのさらなる深化と、機械化・自動化技術の導入拡大を通じて、より多くの求職者が活躍しやすい現場の実現を目指します。上昇する最低賃金への対応を踏まえつつ、経営の収益性を維持しながら、地域における雇用機会の創出に貢献することが目標です。



▲京丸園スタッフ

▼作業工程の機械化を実践

▼しずおかGAP認証マーク



## 経営者メッセージ

機械化・自動化技術の導入拡大を通じて、より多くの求職者が活躍しやすい現場の実現を目指します。

京丸園株式会社 代表取締役  
鈴木厚志

ホームページ



7

## うなぎいも協同組合

Farmer's  
VOICE

農からはじまる、革命

住所 浜松市中央区卸本町50

TEL 053-443-7190

農業経営の安定化を支  
える外国人材戦略

うなぎいも協同組合は、さつまいも(うなぎいも)5ha、新玉ねぎ7ha、ブロッコリー5ha、じゃがいも0.8haを営農しており、日本人正社員6名と外国人従業員13名、パート職員9名の体制で運営しております。採用した日本人従業員の定着率が低迷していたため、計画的な生産体制の維持が困難な状況に直面していました。

2012年頃から、外部人材の活用を軸に経営基盤の強化に取り組み始めました。中国人技能実習生の受け入れ、日本語学校を通じたインドネシア人学生の採用、スポット業務における労働力調達プラットフォームの活用を進めてまいりました。外国人技能実習生制度により3年間の雇用期間が担保されることで、安定した労働力の確保が可能になると判断したためです。

宿泊施設と生活必需品の供給体制を整備することで、外国人従業員の3~5年の継続就業を実現し、経営の安定化につながってまいりました。今後は、外国人従業員をまとめるリーダーの育成、運転業務従事可能な人材の育成、制度改正に伴う転職自由化への離職対策が主要課題です。



▲農作業で活躍する外国人従業員

▼収穫された「うなぎいも」



## 経営者メッセージ

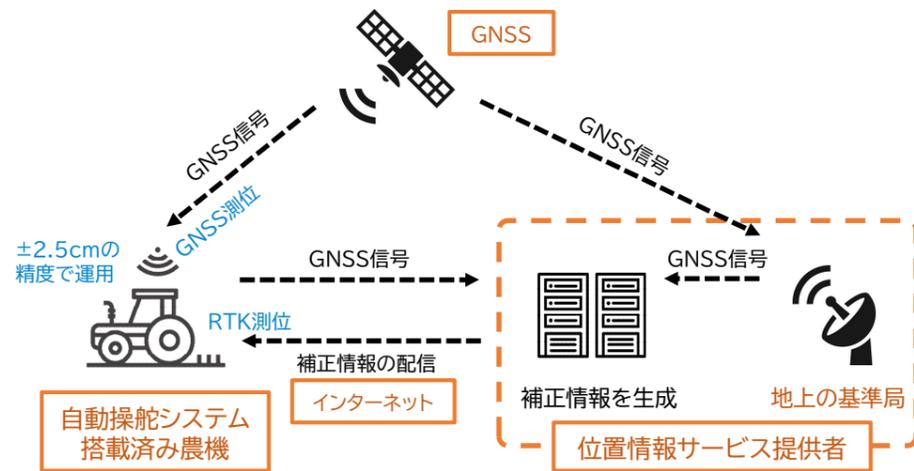
3年の継続就業が実現すれば、経営は安定します。外国人材との協働は、課題解決ではなく、経営成長の道です。

うなぎいも協同組合 理事長  
伊藤拓馬

ホームページ



**取組① 後付け自動操舵システムで高精度な農業を実現**

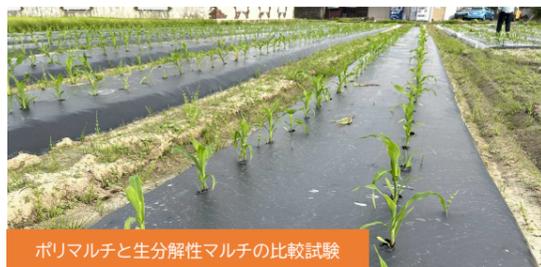


ひらまつファームでは、作業効率化のため、トラクターに自動操舵を後付け導入しました。高精度でまっすぐな畝立てができるとともに目印づくりが不要となり、年間約10万円の人件費を削減。基準線や畝データを保存できるため翌年の作業も安定し、他の作業の規格化にも役立っています。操作も容易で導入効果は大きいと感じています。



後付けの自動操舵システムでは、タブレット、GNSS受信機、電動ステアリングホイール(ハンドル)をセットで導入。トラクター、田植え機、その他の農業機械に幅広く対応し、重複作業の回避や燃料費の削減を実現でき、生産効率の向上につながります。

**取組② 生分解性マルチで省力化**



生分解性マルチ2種類を導入し、マルチ崩壊の様子や地温の推移、価格や作業時間を調査しました。その結果、「スーパードロ」(みかど化工)が栽培後期まで素材の劣化が少なく、雑草抑制効果も見込め、トウモロコシ栽培に適しており、生育への影響もありませんでした。また、ポリマルチに比べ、処分費や人件費を鑑みてもトータルコストが抑えられたため、導入効果は十分に感じることが出来ました。

**取組③ 病害虫防除をサービス事業者へ委託**



農薬散布を外部のドローン事業者へ委託することで、作業効率化・負担軽減を図っています。ドローンによる計画的な予防散布が可能になり、リーフレタスの害虫被害率は約0.2%と大きく改善したほか、繁忙期でも他の作業に時間を充てられるようになり、経営の安定化につながりました。また、農薬購入費の削減や人件費の圧縮といった経済的効果も得られた一方で、天候の影響を受けやすく業者選定も難しいこと、周辺住民の理解が必要であることが課題として残っています。

**紙マルチも試験中？**

ひらまつファームでは、サニーレタス栽培で紙製マルチシート(王子エフテックス製)を試験しています。生分解性マルチに比べ、地温上昇抑制効果が期待されます。展張時の破れ等もなく、順調に生育していることから来年作のスイートコーンでも継続的に試験していく予定です。



**自動操舵×ドローン×生分解性マルチ  
スマート農機等の導入で農業を改革中！**

深刻な人手不足に対し、環境にやさしい省力化技術の導入で挑む  
浜名湖アグリフォーラム実行委員会メンバーの取組を紹介します。



静岡県西部  
農林事務所が  
実証に協力！

教えてくれた人



ひらまつファーム  
平松輝彦さん

<経営規模>  
トウモロコシ:110a  
リーフレタス:140a  
ミニトマト:18a

農福連携にも取り組み、ノック・アワード2023フレッシュ賞を受賞。



HPIはこちらから



グリーンな栽培体系に取り組むことで省力化に挑む  
浜松市旧浜北区では、スイートコーン、サニーレタスによる輪作体系が確立されていますが、農地の集積・集約化や大規模化、持続可能な農業を実現するためには、栽培体系の見直しや省力化が求められています。特に、農薬散布作業は、時間と労力負担が大きく、省力化を求める声がよく聞かれます。また、トラクターを用いた耕耘やマルチ張りといった作業では、正確性や負担軽減が求められています。

さらに、スイートコーンのマルチを最後まで引く栽培方法では、通常、収穫後の回収作業として、①作物残さ除去②マルチ剥がし③砂払い④折りたたみ⑤耕耘の5工程が必要となります。これに対し、生分解性マルチは、土壌中の微生物によって分解されるため、収穫後は「マルチをほ場にすき込む」の1工程で処理可能な上、廃プラスチック排出抑制による環境負荷低減にもつながります。その一方で、導入コストや、使用時の留意点、生育及び収益に及ぼす影響等について知見が多くありません。  
そこで、ひらまつファームでは、①トラクターへの後付けの自動操舵システムの導入や②ポリマルチから生分解性マルチへの転換、③ドローンによる農薬散布作業の委託を図り、省力効果や生育への影響、防除効果について試験を行いました。  
スマート農業技術や環境負荷低減につながる技術の導入は、導入経費や人件費といったコスト面からもしっかりと評価し、コストに見合った効果かを見極める必要があるとともに、使いこなす人材の育成も欠かせないと感じています。